



秋田の健康と産業を支え続ける  
老舗企業の挑戦

## 川上から川下まで。 「メイド・イン・サノ」という、新たな支流



代表取締役  
佐野 宗孝 Sano Munetaka  
〒010-0061  
秋田市卸町3丁目4番2号  
TEL.018-862-6644  
https://www.sano-co.com  
◎設立/江戸時代後期(創業230年)  
◎資本金/4,000万円  
◎従業員数/34名  
◎業務内容/医療・工業・理化学・消耗品・試薬  
介護福祉分野の各種機器・システムのご提案、  
廃棄物処理、サプリメント開発・支援

秋田市にて株式会社化し、まもなく65年目を迎える「株式会社サノ」。

秋田県内を中心に、臨床検査薬・検査機器、研究・分析用薬品、工業用薬品などの薬の卸売業で医療や研究を下支えしてきた同社だが、近年、これらに加え力を入れているのが、自社製品の開発だ。長きにわたり秋田県民の健康を守り続けてきた企業の今を、代表の佐野宗孝氏に伺う。

### 「インフラの一つ」という実感をもって

「営業をして、仕入れて、納品する、というのが弊社の業務ですが、コロナ禍を通じて、抗原検査やPCRキットなどの商品に注目が高まるとともに、我々の業務は社会インフラの一つであり、『ものの流れを途切れさせてはいけない』ということ、私も社員もあらためて感じるようになりました」と話す、佐野氏。

業務の多くがBtoB。顧客へ商品の提案をすることで顧客の雇用も守られるが、その一方で、何気ない提案や値上げ・値下げが、基幹事業や医療の収益にまでつながっていく、その影響の大きさも実感しているという。

### メイド・イン・サノ

同社の売り上げの中で徐々にウェイトを増やしているのが「メイド・イン・サノ」の製品だ。

2016年より、関連企業「サノ・ファーマシー(佐野薬局)」とともにスタートした開発事業。三種町のじゅんさいと酒粕を使用した、肌質や便通改善などに効果のあるサプリメント「潤彩小町」に始まり、今年2月には、秋田杉の葉を使用した除菌エタノールスプレー「杉の雫」、そして、8月末には、じゅんさいと黒ショウガエキス配合の歩行能力の維持を助ける機能性表示食品サプリメント「てくケア」がリリースされた。

各製品、その機能はさることながら、秋田の資源を使用しており、杉の雫においては、その製造工程に県内企業数社が携わる「オール秋田」の商品で、さらには売り上げの一部が再造林育成のための基金に充てられるという。

「秋田県民の健康」が基本精神ではあるが、同時に、秋田独自の課題と向き合い、秋田の産業を支えることにもつながっているのだ。

### 川上から川下まで

「これまで、ものの流れとして、佐野薬局では消費者に近い『川下』、株式会社サノでは卸売業として『川中』を担って



アクティブシニアの歩行能力維持を助けるサプリメント「てくケア」は、サノ薬局やECサイトで販売中。



「秋田県民の健康」をキーワードに、卸売りのほか、健康に資する商品を展開しています。



企業理念は「地域への貢献を通して、健康で快適な社会と全社員の幸せを実現する」。2019年に社内で議論のうえに制定した。

きましたが、唯一欠けていたのが『川上』、すなわち、商品開発の部分でした。このように、メイド・イン・サノの商品を持つことで、川上から川下までの流れを作ることができるようになりました」と佐野氏。

高齢化、人口減の進むなか、これまで以上の大河となり、秋田の健康と産業を支える強固な存在となっていくさうだ。